

CD44v9 is associated with epithelial- mesenchymal transition and poor outcomes in esophageal squamous cell carcinoma

谷口, 大介

<https://doi.org/10.15017/2348699>

出版情報：九州大学, 2019, 博士（医学）, 課程博士

バージョン：

権利関係：(C) 2018 The Authors. This is an open access article under the terms of the Creative Commons Attribution License, which permits use, distribution and reproduction in any medium, provided the original work is properly cited.

氏 名：谷口 大介

論 文 名：CD44v9 is associated with epithelial–mesenchymal transition and poor outcomes in esophageal squamous cell carcinoma

(食道扁平上皮癌において CD44v9 は上皮間葉移行および予後不良と関連する)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

CD44 は癌幹細胞マーカーとして機能する。選択的スプライシングにより CD44 バリエーションアイソフォーム 9 (CD44v9) が生成される。癌幹細胞は様々な癌種で上皮間葉移行 (EMT) と関連するが、食道扁平上皮癌 (ESCC) におけるそれらの役割はほとんど明らかになっていない。そこで、我々は CD44v9 発現、EMT および ESCC 患者の臨床病理学的特徴の関係を明らかにすることを本研究の目的とした。腫瘍中心部と比較し腫瘍先進部で、また、原発巣と比較しリンパ節転移巣で CD44v9 発現は高かった。腫瘍先進部における CD44v9 の高発現は腫瘍の深達度および全生存率・無再発生存率の不良と有意に関連があった。ESCC 細胞に EMT を誘導する transforming growth factor - β で刺激すると CD44v9 発現は上昇した。さらに、CD44v9 発現を抑制すると ESCC 細胞の遊走能および浸潤能が低下した。腫瘍の幹細胞化に誘導される腫瘍先進部での CD44v9 発現は EMT および ESCC 患者の予後不良と強い関連があったことを本研究は示している。それゆえ CD44v9 は ESCC に対する新しい予後予測バイオマーカーおよび治療標的となる可能性がある。